

令和5年度 小平市立小平第八小学校 学校評価報告書

学校教育目標 学習指導要領に基づき、東京都教育委員会の教育目標及び基本方針、小平市教育振興基本計画を踏まえて教育課程を実施する。「確かな学力、豊かな人間性、健康な体」を基盤とし、コミュニティ・スクールとして、保護者、地域が一体となった学校づくりを目指す。地域に根ざした教育活動を推進することによって、「思いやりがあり心豊かな子」「すすんで社会に貢献しようとする子」「自ら学ぶ創造力豊かな子」「健康でたくましい子」の育成を目指し、教育目標を設定する。◎思いやりのある子 ○よく働く子 ○工夫する子 ○元気な子

目指す学校像(ビジョン)
 【目指す学校像】 ○児童が登校を楽しみにする学校 ○保護者や地域社会に信頼され、応援していただける学校
 【目指す児童・生徒像】 ◎思いやりのある子 ○よく働く子 ○工夫する子 ○元気な子
 【目指す教員像】 ○それぞれの立場でよさを発揮し活躍する教員

前年度までの学校経営上の成果と課題
 学校評価の各項目において保護者・地域の方から、概ね肯定的な回答を得ることができた。校内研究では、昨年度に習得できたICTの知識や技能を活用し、国語の学びを深める子の育成を目指していく。コミュニティ・スクールとしては、コロナ禍により地域と関わる機会が減少した。どの学年も地域と関わる学習を充実させることで、地域の教育力の活用を充実させていく。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学 力 向 上	授業・モジュール・家庭学習等で繰り返し練習させ、小テスト・計算名人検定・東京ベーシックドリルを行い、漢字や基本的な計算を習熟させる。	3	3	<成果>・モジュールを国語のみにすることで、新出漢字を練習する時間を確保できた。 <課題>・全児童が習熟するまでに至らなかった。→習熟が必要な児童に対しては、個別最適な学びを充実しつつ、個人面談等で家庭と指導の方向性を確認しながら、有効な手立てを行う。	4	4	・先生方は常に現状を把握し、改善点を皆で共有し取り組んでいる。 ・学習者用端末の活用はかなり進んだと思う。きめ細やかな支援が必要な児童がいるのに少人数算数が実施できないのは残念。 ・家庭科(ミシン)の授業で学習者用端末を活用しているのが新鮮だった。	<成果>・繰り返し学習する時間を確保することで、習熟を図ることができた。 <課題>・モジュールの内容は、校内研究とリンクさせると、モジュールでの学習がより効果的になるのではないかと感じる。→校内研究とリンクをする場合は、内容を精査し、学習指導要領に則って計画的に行う。
	1人1台の学習者用端末を活用して、個に応じた指導を工夫する。	2	2	<成果>・ほとんどの児童がルールを守って端末を活用できている。 <課題>・調べ学習やまとめなど、端末に頼りがちになってしまう。→それぞれのツールのメリットを理解して、目的に応じてツールを選択できるように指導する。	3	4	・先生方から先に挨拶をすればそのうち児童から先にするようになると思う。 ・挨拶の重要性を気付かせる教育がもっと必要。 ・学校内だけでなく、家の近所でも挨拶してくれるお子さんが多くなった。	<成果>・一人一人の実態に応じて、学習者用端末を効果的に活用することができた。 <課題>・個に応じた指導法について研修を積む必要がある。まだ力量が足りていない。→学習の中でICTを効果的に活用できるように、個別最適な方法を見出し、実践を続けていく。
健 全 育 成	毎月行われる校内委員会やいじめ対策委員会を中心に、組織としていじめ防止の取組を推進し、未然防止・早期発見・迅速かつ丁寧な対応に努める。	4	4	<成果>・校内や学年で、気になる事案については、細かく情報共有をしている。また、教員たちで対象児童に対して、学級や学年を超え、積極的に声掛けを行っている。	4	4	・いじめ、保護者の対応等、先生方が疲弊しないよう望む。 ・苦痛を感じている子どもがいないか、学校で聞く場や環境があるのか気になる。	<成果>・夕会で情報共有することにより、学校全体で見守ることができた。 ・いじめにつながる案件が発生した際、すぐにいじめ対策委員会を開き、対応できた。 ・学年内で綿密な情報共有を行うことができた。
	「挨拶・思いやり・清掃・廊下歩行・外遊び」に関する月目標を設定し、全教員で一致した指導を行う。	4	3	<成果>・教員間で一致した指導を行うことができた。 <課題>・清掃において、私語が多かった。→無言清掃に努めるよう、日常的に指導を続ける。また、美化委員会による児童発案の取組により、無言清掃を意識できるようにする。	4	4	・先生方から先に挨拶をすればそのうち児童から先にするようになると思う。 ・挨拶の重要性を気付かせる教育がもっと必要。 ・学校内だけでなく、家の近所でも挨拶してくれるお子さんが多くなった。	<成果>・児童が月目標を意識して活動することができている。 <課題>・廊下歩行に課題がある。・挨拶は自分からできる児童は少ない。→今年度、児童発案の取組として、代表委員会による正しい廊下歩行を促す活動と美化委員会による無言清掃週間が行われた。今後も教員による指導と合わせて、児童主体の取組を行っていく。
キ ャ リ ア 教 育	生活・総合的な学習の時間を核として、各教科・道徳科・外国語活動・外国語科・特別活動等の授業において、学年に応じたキャリア教育の授業実践を行う。	3	3	<成果>・キャリア教育のねらいに沿った指導を行うことができた。 <課題>・キャリア教育を意識した授業が少なかった。→年度初めにキャリア教育プログラムを確認する等、学年で身に付けるべきことを教員が意識できるようにする。	3	4	・キャリア教育は地域人材(保護者含む)の活用があってもよいと思う。 ・授業においてもブロック班活動においてもキャリア教育としての意識付けが大事。	<成果>・キャリア教育のねらいに沿った指導を行うことができた。
	ブロック班活動等で異学年交流を計画的に実践していく。	4	4	<成果・課題>・ブロック班は、児童の主体性を伸ばす上で良い活動と感じる。一方で、今後も学校規模が大きくなるとともに、行事に追われすぎない落ち着いた学習環境を考えていくと、教職員が多忙の中でやり続ける必要があるのか悩む部分もある。	4	4	・6年生のリーダーシップが素晴らしいと思う。話の聞き、現5年生への継続が望まれる。 ・6年生の負担感は危惧していますがなんとかこなしていると思う。	<成果>・ブロック班活動の回数を重ねることに、6年生のリーダーシップが育ってきた。 <課題>・ブロック班は、通常でも多忙な6年生の学校生活を圧迫しているように感じる。→校内の行事だけでなく、移動教室や連合音楽会など、市が決める行事の日程も考慮し、行事が偏らないようにする。
	全学年で発達年齢に応じた児童発案の活動を実施する。	3	3	<成果>・総合的な学習の時間・特別活動・委員会などで、児童発案の活動が行えた。	4	4	・児童発案を行事とリンクさせて、児童発案が負担増とならないように計画すべき。 ・活動内容の把握及び進捗状況はコミュニティだよりを定期的に読むことで理解が可能だと思う。地域との協業という視点からは八小地域防災ミーティングへの出席も有益かと思う。 ・ホームページは更新ありきではなく、必要な情報をタイムリーに発信するのが基本。	<成果>・学年の行事や全校の行事で児童発案の活動ができている。 <課題>・児童発案の活動が年間行事への負担増となっている。→今年度の取組をベースに、日程や取り組む学年の調整をしていく。
コ ミ ュ ニ ティ ・ ス ク ー ル	ホームページの更新を週1回程度、コミュニティだよりは月1回発行、必要に応じて地域教育コーディネーターだよりを発行する。	3	3	<成果・課題>週1回HPを更新できた学年とできない学年があった。→ホームページの更新については、各学年で定期的に更新できるよう、計画的に進める。	4	3	・先生方の休憩時間を確保するなど、進め方に関し考慮します。 ・CS会議に教員参加の意義は委員との相互理解であることを周知徹底してほしい。	<成果>・週1回のホームページ更新は教師の負担感も大きくなくちょうど良い。 <課題>・学年で声を掛け合い、細かく分担する必要がある。
	全教員が輪番で学校経営協議会に参加し、授業で積極的に地域人材の活用を図る。	2	2	<成果>・日頃から、地域の方と積極的に意見交換ができた。 <課題>・1学期は地域人材の活用ができなかった。・CS会議の輪番制の制度が整っていない。・時間設定について、難しいところがある。→地域人材の活用、CS会議への輪番での参加については、年度初めや学期初めに計画を立て、見直しをもって進める。	4	3	・CS会議で先生方とお話する時間がもう少しあればいいと思う。 ・教員の地域担当の明確化。また年度すぐの打ち合わせを希望。 ・ペーパーレス化を図ってほしいが、情報が確実に届くように配慮を願う。	<成果>・町探検の際に地域の方に協力していただき、児童が安全に活動することができた <課題>・教員のCS会議への参加が負担になっている。→休憩時間や仕事時間の確保、内容の吟味をしていく。
業 務 改 善	放課後の会議、研修等の精選を行い、授業準備・校務の時間を十分に確保し、事務作業はSSSが代行する。	3	3	<成果>・時程の改善が効果的だった。・1学期末の成績処理が余裕をもって行えた。・sssの活躍により、放課後に授業準備を行う時間を確保することができた。 <課題>・まだまだ業務改善できることもあると思う。→教職員の実情を踏まえ、広く意見を集めることで、更なる業務改善を図る。	4	4	・CS会議で先生方とお話する時間がもう少しあればいいと思う。 ・教員の地域担当の明確化。また年度すぐの打ち合わせを希望。 ・ペーパーレス化を図ってほしいが、情報が確実に届くように配慮を願う。	<成果>・事務作業をSSSに代行してもらい助かっている。 <課題>・起案文書の期日は、教職員全体でしっかりと守る。→余裕をもった提出を心掛ける。また、ペーパーレス化等、業務改善も並行して行うことが課題である。そのために次年度は、配付文書のデジタル化やデジタルドリルの使用を試行する。